



【発行】林野庁 東北森林管理局  
津軽白神森林生態系保全センター

住所：青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字舞戸町字東阿部野 70-82  
TEL：0173(72)2931 FAX：0173(72)2932

## 十二湖の歩道を安全に歩いていただくための調査に参加しました！

9月27日、私たち津軽白神森林生態系保全センター職員3名は、十二湖遊歩道の危険木調査に参加してきました。この危険木調査は、遊歩道の利用者に危険を及ぼす枯木等を調査し、処理に向けた検討をするためのもので、深浦町役場の呼びかけにより、地元十二湖森の会、行政から青森県自然保護課、津軽森林管理署、そして私たち津軽白神森林生態系保全センターが参加して毎年実施しているものです。

私たち参加者18人は4班に分かれ、それぞれ分担とされたルートの調査をしました。メンバーにより危険と判断された木は、輪尺（木の直径を測る道具）で測樹し、ナンバーテープとピンクテープで目印を付けていきます（2ページ目の写真を参照）。ちなみに私は輪尺係で、危険木があると、その木に駆け寄って、その場で下にいる記録係に樹種と輪尺で測った直径を大声で報告するのですが、とにかく困ったのは、木の種類の判別でした。枯れて葉が無くなっていると、これがなかなか判りにくいのです！そういうときは、メンバー一同で相談して、最終的にこれ、と決定するのですが、まだまだ精進が必要と痛感しました。。。

もう秋を感じさせる日差しの中、軽く汗をかきながら歩いていると、その心地よさにフッと仕事を忘れそうになる時がありますが、こういった気持ちを多くの方々にも



調査前の打ち合わせ（深浦町役場提供）



危険と思われる木を調査

感じていただくため、普段あまり接点のない関係者の方たちとも同じ目的で作業するという機会が得られたのは、私たちにとって有意義なことだったと思います。

私はこの調査に初めて参加しましたが、今年度は8月の豪雨被害により未だ多くの遊歩道が閉鎖され、その一刻も早い開放が期待されている中での実施であり、参加者の方々とともに、一所懸命に調査しました（仕事を忘れそうになったのはほんの一瞬です汗）。森林に関心を抱く方たちが、より安全に森林を楽しんでいただけるよう、私たち津軽白神森林生態系保全センターは、今後も関係者の皆さんと協力していきたいと考えております。（赤澤）



危険木を測りマーキング

## 親子木工教室を実施しました

10月8日（土）、9日（日）の2日間にわたり、西目屋村にある青森県の白神山地ビジターセンター主催のイベント「第29回白神山地ビジターセンターふれあいデー」が開催されました。津軽白神森林生態系保全センターからは、親子木工教室で、土曜日2名、日曜日2名の計4名が参加しました。

夏に引き続き新型コロナウイルスの感染症は収まっていないことから、工作室内の密集を避けるため、事前の予約制にし、1回あたり4家族までと限定して募集し、2日間6回で計22組の親子が参加して下さいました。なお、参加者の皆様に安心、安全に作業していただくために、私たちスタッフで各回、作業が終わった時点で、作業台、使用した道具の消毒を行う感染対策を徹底しました。



家族一丸となつての釘打ち体験

木工教室で使用している木製キッドは、杉の間伐材を使用して作られているので、杉の香りと肌触りが体験でき、参加者が同じ部材で椅子かプランターを選んで作ることが出来るので、親子で話し合いながら何を作るか決めていました。

始めに私たちスタッフが作り方と注意点を説明し、鉛筆と定規で釘を打つ位置に印を付けてから製作に取りかかってもらいました。その際に、釘を支えている自分の指



**完成までラスト1本**

ことができ、木に親しみを感ずることができた体験でした。」「子供や大人が木工にふれる機会がもっとあればいいなと思います。」などの感想をいただくことが出来ました。

今回のアンケートでいただいた感想を参考にして、今後ともこのような場を利用して、木材の普及・啓発に努め、木材の良さを感じていただきたいと思います。

(中和)

を誤って金槌で叩かないように慎重に打ち込みをしますが、中には誤って指を叩いてしまい痛い体験をした子もいました。しかし、特に低学年のお子さんは大人に頼る場面もありましたが、自らの手で組み立て、釘を打つという作業をしたことは良い体験になったと思います。

作業終了後に回答していただいたアンケートには、「難易度もちょうど良くていい体験が出来ました。」「初めての木工ですが、わかりやすく作る



**力を合わせてトントントン**

## ゆっくり時間をかけて天然林を目指そうー第2回自然再生活動ー

10月15日(土)西目屋村の国有林内において、一般公募により児童1名を含む5名の参加者を得て第2回自然再生活動を実施しました。当センターの自然再生活動は、山取りした広葉樹の稚樹を一般の方に植栽していただき、長い時間をかけて天然林を育成していくという趣旨で、夏と秋の年2回実施しているものです。7月に予定していた第1回目は県道岩崎西目屋弘前線で発生した土砂崩れの通行止めにより開催できなかつたため、満



**カミネッコンを作成中**

を持しての開催となりました。

今回はカミネッコン（段ボールの植木鉢）を使った植樹で、まず植栽地の空き地にブルーシートを敷いて、そこでカミネッコンを作っていただきました。これはいささかコツが必要な作業で、最初は苦心する方もいましたが（私も非常に苦心しました汗）、段々と慣れてきて、完成品が次々と積み上がっていきます。

できあがったカミネッコンに、予め採取しておいたブナやミズナラ、イタヤカエデなどの広葉樹稚樹を植えて、さらにそのカミネッコンにそれぞれの目印や思いを印し、円を描くように設置しました。当日は少し雲が厚く、天気が少し心配されましたが、そこは参加者皆さんの熱意が天に通じたのか、作業中に雨が降ることもなく、この中から、数十年後、数百年後に豊かな天然林が育っていくことを願い、無事に作業は終了しました。

植栽作業の後は昼食を挟んで、暗門川付近のブナ林散策道を散策しました。本格的な紅葉にはまだ早かったですが、ブナやトチノキといった木々やユキザサなどの野草の実、咲き残っている秋の花などを鑑賞し、年老いて倒れたブナの大木に命の循環を感じていただき、約1時間半の短い時間でしたが、その日植栽した稚樹たちの将来の姿に思いを致しながら歩いていただけたのではないかと思います。

最後に。。。当センターでは来年度も夏と秋に2回の自然再生活動を予定しています。来年度も多くの方が天然林と一緒に再生する活動に参加してくださるのを、職員一同、心よりお待ちしております。（赤澤）



底が落ちないように慎重に・・・



作業終了後の記念写真



散策中の様子